

# 金沢職人大学校の取り組み

—伝統技術の継承と人材育成—

公益社団法人 金沢職人大学校 淵 吉忠

## はじめに

公益社団法人金沢職人大学校が立地する石川県金沢市は、1583（天正11）年、加賀藩祖前田利家が金沢城に入場して以来、約440年、幸いなことに戦禍を免れ、大きな地震や台風等の自然災害にも見舞われることなく、藩政期の町並みを現在に継承している我が国でも希少な都市である。

また、芸能、工芸、食文化が栄え、歴史的な重層性のある都市が形成されており、現在も市民生活に受け継がれている。

一方、将来にわたり、日本海沿岸の中核基幹都市として発展するため、近代的な街づくりにも努めていくことが求められてきたことから、歴代市長は、「保全と開発の調和」を基本方針として掲げ、まちづくりを行ってきた。

保全する区域は、藩政期からの都市構造や伝統的な環境が色濃く残る旧城下町区域とし、開発する区域は、新都心として開発したJR金沢駅から金沢港までの金沢駅西地区及び旧城下町区域におけるJR金沢駅から武蔵が辻、片町・香林坊に至る都心軸（※1）の沿線に制限することによって、保全と開発の調和を図ってきた。

このようなまちづくりの方針によって、旧市街地は、17世紀の藩

政期の絵図と現在の航空写真を重ねてみても生活道路は、ほとんど変わっていない。幹線道路（国道157号）から一歩内側の街区に足を踏み入れると、車がすれ違うことが出来ない狭い道路（※2）が多く存在し、沿道には歴史を刻んだ建物が現存している。

## 金沢職人大学校が生まれる背景

金沢を代表する金沢城跡、兼六園等は、加賀藩時代の伝統技術でつくられたものである。これらは国指定史跡、国指定特別名勝となっており、国や石川県が管理し、継承している。

一方、金沢のまちの景観を形成している武家屋敷などの住居や庭は、個人が所有している。これらが今に残っているのは、個人と地元の職人の手で守られてきたからであり、将来にわたって歴史遺産を維持・継承していくためには、守り、伝える人材が必要となる。

職人の技によって個人の住宅が修復され、受け継がれてきたことによって、「金沢らしい」町並みが残り、国内でも独自の輝きを放つ町となっている。

しかしながら、戦後の生活様式が近代化し、職人の仕事が機械化されたことにより、伝統的で高度な職人技が継承されにくくなっており、職種によっては職人の数そのものが減

少している。

金沢職人大学校は、金沢という城下町とその文化をつくってきたのは職人であり、職人を育てていく仕事は国でも県でもなく、金沢市の務めという前市長の思いから生まれたもので、「歴史に責任を持つ」ことは市のまちづくりの基本ともなっている。

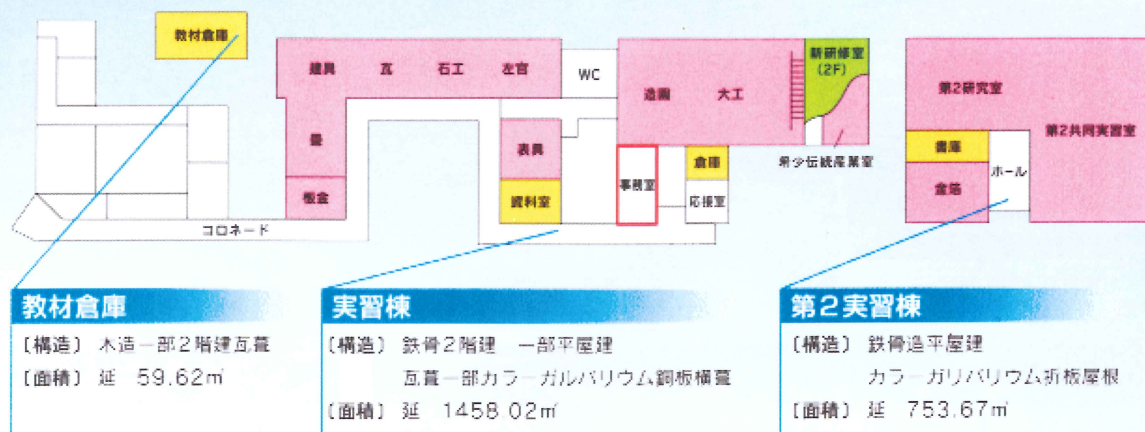
前市長の著書によれば、ある時、神社の改築披露に出席した際、その場にいた職人たちが隣県の人ばかりであったことから、知り合いの宮大工の棟梁に相談したところ、今のうちに技を教え、伝えておかないと、金沢にお宮やお寺を建てることのできる腕利きがいなくなる、と強い危機感を覚えたことが金沢職人大学校設置のきっかけになったとある。

## 設立の目的

このような背景の下、本校は、1996年10月に9業種9組合の協力のもと、金沢市が出資し、社団法人金沢職人大学校（本科）として設立された。施設（図-1）は、金沢市が設置し、指定管理者として社団法人金沢職人大学校が運営を担っている。その後、1999年10月に修復専攻科が増科、2012年4月に公益社団法人となり、現在に至っている。

設置の目的は、金沢に残る衣食住の伝統技術のうち、「住」に関する

## 実習棟



### 教材倉庫

【構造】 木造一部2階建瓦葺  
【面積】 延 59.62㎡

### 実習棟

【構造】 鉄骨2階建 一部平屋建  
瓦葺一部カラーガルバリウム鋼板葺  
【面積】 延 1458.02㎡

### 第2実習棟

【構造】 鉄骨造平屋建  
カラーガルバリウム鋼板葺  
【面積】 延 753.67㎡

図-1 | 施設概要

職種を対象として「金沢に残る伝統的で高度な職人の技の伝承及び保存のための人材の育成を図る」とともに、「伝統的な職人文化に対する市民の理解と関心を深めること」である。

## 大学校の概要

金沢職人大学校は、本科と修復専攻科の2つのコースからなる。各コースの概要は以下のとおり。

### 1. 本科

本科は「つくる技術」を学ぶコースであり、9つの職種(石工科・瓦科・左官科・造園科・大工科・畳科・建具科・板金科・表具科(写真-1~9))からなっている。

それぞれの職種ごとに、伝統的な「つくる技術」を3年かけて学ぶ。

定員は、50名(各科5名、大工科のみ10名)、入学対象者は、概ね職歴10年以上の基本的技能を習得している中堅職人で継続して自主的に研修する意欲のある者としている。また、所属する各業種組合の推薦が必要となる。

いわゆる職業訓練校ではなく、プロがより高度な伝統技術を学ぶ場となっている。

講師は、石川県、金沢市の各職種で卓越した技術を持つ職人さんに務めて頂いており、登録講師数は、現在46名である。かつては一子相伝又は内弟子のみであったかもしれない技術の伝承を後継者の育成という観点から研修生に伝えて頂いている。

大学校という名前ではあるが、講師・受講生ともに現役の職人であることから、授業は毎日ではなく、コースによって異なるが、原則月4回、研修の時間帯は、仕事が終わった19時から21時としている。

「本科」を修了した者には、金沢市より「金沢匠の技能士」の認定証が授与され、ここで学んだ技術は、歴史都市金沢が有する歴史文化資産の継承に生かされている。

### 2. 修復専攻科

本科開設の3年後に増設された修復専攻科は、金沢職人大学校の専門課程に位置付けられ、本科修了生から選出された研修生のほか、建築設計士、金沢市文化財関係職員等、歴史遺産に携わる多くの職種の人材が在籍し、「なおす技術」を学んでいる。本科と同様に所属組合等の推薦が必要となる。

講師は、国の文化財調査官及び修復等に関する学識経験者等に務めてもらっている。

こちらも就学期間は、3年間とし、授業は、週1回行っている。

カリキュラムは、半年間の「講義」(写真-10)、2カ年の「実習」(写真-11)、半年間の「修了製作」から構成されている。「修復専攻科」を修了した者には金沢市より「歴史的建造物修復士」の認定証が授与され、ここで学んだ伝統技術は、ただ単に学ぶだけでなく、実務として、歴史遺産の保存修復に還元されている。

### 3. 就学費用

学費は基本的に両科とも無料である。市が設立し、授業料が無料という施設は全国的にも他に類を見ない。

### 4. 研修生、修了生の状況

現在、本科8期生47名、修復専攻科7期生45名が研修中(2017年10月~2020年9月)であり、これまでに本科331名、修復専攻科235名の修了生を輩出している。

### 5. 職人大学校設置の効果

修了後は、本科の講師等として後



写真-1 | 石工科



写真-2 | 瓦科



写真-3 | 左官科



写真-4 | 造園科



写真-5 | 大工科



写真-6 | 畳科



写真-7 | 建具科



写真-8 | 板金科



写真-9 | 表具科

進の指導に当たってもらっている。また、修復専攻科の研修生には金沢市から歴史的建造物の調査や設計、保存修復の工事が委託されている。近年は、石川県が行う金沢城の復元事業における門や長屋の工事を手掛ける機会を得るようになってきている。

### 課題と対策について

金沢職人大学校設立後20年余りを経過しており、「1. 減少する研修生の確保」、「2. 市民向けPRの強化」、「3. 修了生の活躍の場の創出」が課題として挙げられる。これらの

課題の対策について記述する。

#### 1. 減少する研修生の確保

生活の洋風化と職人の仕事の機械化により、市内の職人の数が減少しており、近年は、研修生の確保に苦労している職種も見られる。

金沢市周辺の市町が旧加賀藩であること、周辺の職人が金澤町家（※3）や伝統的建造物の修理や修景に係わっていることもあり、研修生の対象を金沢市に隣接する3市2町（※4）に拡大することで、圏域全体の伝統技術の保存及び人材育成に取り

組むこととしている。

手仕事で歴史的建造物を修理する技術の大切さ、重要性を職人に認識してもらうことが研修生の掘り起こしに繋がるはずであり、業界へのPRが必要と考えている。

#### 2. 市民向けPRの強化

市民の職人の技への理解と交流を目的として、職人技を一日体験する「市民公開講座」や「授業参観」、小中学生にものづくりを通して、職人さんの技や心意気を体感してもらう「子どもマイスタースクール」など



写真-10 | 修復専攻科の講義風景

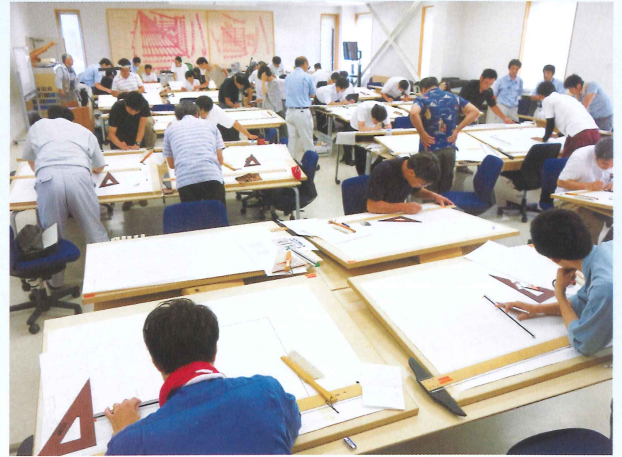


写真-11 | 修復専攻科の実習風景

の市民参加事業を実施している。

2016年度からは、金沢の貴重な「職人の技」を保存・伝承していくための資料とするとともに、金沢職人大学の広報、情報発信のツールとして活用することを目的に、「職人の技」を映像として残し、アーカイブ化する取り組みを行っている。

### 3. 修了生の活躍の場の創出 ～技術を磨く環境づくり～

講師へのアンケートによれば、習得した技術を発揮する場が少ないという回答がある。市の歴史まちづくりの推進に貢献するため、歴史的建造物等の修復機会を創出し、技術により磨きをかけていく必要がある。

#### (1) 文化財等の調査・修復依頼等に対する積極的な対応

- ① 前述した市からの修復事業等の委託を積極的に受注している。
- ② 市文化財等の調査依頼(事前調査)等にも、「歴史的建造物修復士」の関与の拡大を図るため、協力を努めている。実務経験によるスキルアップと調査後の活躍の場の創出の機会と捉えている。
- ③ 修復専攻科では、市内の文化財施設等の調査を実施している。調査に協力頂いた施設には、調査報告

書を寄贈している。

#### (2) 歴史的建造物の減少に歯止めをかける。

今年度から市内の町家や寺院等の保存価値のある民間の建物を修復専攻科の教材として、活用させて頂く取り組みを始めている。市の文化財の数に限りがあることや、失われつつある歴史的建造物の価値を所有者に認識して頂きたいという思いで、調査対象の範囲を拡大している。地道で小さな取り組みだが、市内に残る「歴史的な財産」の減少の歯止めの一助になればと考えている。

#### (3) 広報、PRなどに努める。

伝統技術を継承する職人の存在を関係方面へ周知するため、広報・PRをさらに進めていく。また、高校、大学をはじめ、教育機関等から要請があれば、後継者育成の観点からも職人を講師として派遣することも検討していきたい。

### さいごに

当大学校は、金沢の持つ歴史文化資産にさらに磨きをかけ、後世の人にも評価してもらえるよう、高度な伝統技術の継承と人材の育成を通じ

て、まちの魅力の継続と一層の発展のための下支えをしたいと考えている。今後とも職人ファーストの運営に努めてまいりたい。

- ※1 片町・香林坊から武蔵ヶ辻、さらには金沢駅を経て金沢港に至る、国道157号、金沢駅通り線、金沢駅港線で、金沢市の中心市街地と新都心を結ぶ動脈のこと
- ※2 道路の幅が4m未満の狭い道路のこと
- ※3 金沢市の歴史・伝統・文化を伝える昭和25年以前の建物で、伝統的な構造・形態・意匠を有するもの
- ※4 白山市、野々市市、かほく市、津幡町、内灘町

#### [文 献]

- 1) 山出 保 「金沢の気骨－文化でまちづくり」 2013年、金沢、北國新聞社
- 2) 金沢市都市計画マスタープラン2019 2019.8 金沢市

#### 淵 吉忠

公益社団法人 金沢職人大学校  
事務長

<http://www.k-syokudai.jp/>